

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

○ 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校

○ 「大阪」の将来を担う人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校

○ 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

【生徒にはぐくみたい力】

○ 強靱な知性・みずみずしい感性・品格ある人間性

→ 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）

生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）

豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解・多文化共生 等）

社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

【基調】 進学指導特色校（グローバルリーダーズ ハイスクール）の基礎の確立

→ 深化する高津高校・高津生一つ（普通科と文理学科との協働と切磋琢磨）／力のある教員

1 確かな学力をふまえつつ、高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

（1）新学習指導要領をふまえた特色ある教育課程の編成

ア 1年次での国語、数学、英語の充実

イ 国語・数学・英語の少人数展開授業

ウ 2学期制のもと、2年次からの多様な選択を可能にする半期認定制度の実施

エ 文理学科2年次の課題探究の実施

（2） 魅力ある授業の実施

（3） 講習、補講の充実、自学自習の促進

（4） スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の成果の校内普及

2 豊かな心のはぐくみと規律・規範の確立

（1） 人権尊重と規律・規範意識の向上生徒の社会体験活動の促進

（2） 生徒の自主的活動の活性化（生徒自治会活動、学校行事、部活動）

（3） 生徒一人ひとりの健康チェックと情報共有化

（4） 教育相談体制の充実

3 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立

（1） 教科指導力の向上 授業評価システムの確立（生徒による授業評価、教員間の授業交流）

（2） 研修の充実 生徒指導、人権、心の発達、保護者連携、地域に開かれた学校づくり 等

（3） ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成

（4） 学校の組織的運営

（5） ICTを活用した教科指導、校務の効率化や情報の共有化

（6） 地域に開かれた学校づくりの推進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 年 月実施分〕	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力をふまえつつ、高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み	【新学習指導要領をふまえた特色ある教育課程の実施】	ア・創造探究委員会の企画のもと、各教科で担当者を決め、文理学科２年次の課題探究を実施する。その成果を学校全体に普及させる。	ア・課題探究内容を評価する。 ・文理学科の２年生の満足度を高める（アンケート／満足度 100％）。	
	ア 文理学科２年次の課題探究講座の実施	イ・教科・科目の特性などを見きわめながら、プロジェクトなどのＩＣＴの活用を図る。 ・国のスーパーサイエンスハイスクール事業を活用しながら、高大連携事業等をすすめる。 ・１、２年生全員対象にネイティブによる英語少人数集中講座を年間２回実施する。３年生希望者に年間１回実施する。 ・１、２年生対象に、実用英語技能検定の受検を促進する。 ・補習や土曜講習等を実施する。	イ・ＩＣＴ活用授業の取組み数を増やす。 ・高大連携事業への参加者数を増やす。 ・実用英語技能検定試験の受検者数を増やす。 ・各学年で講習等への参加生徒数の増加をめざす。	
	イ 魅力ある授業等の実施	ウ・キャリア教育をふまえ、進路指導部と１、２年学年団とが連携し、総合的な学習の時間を活用し、７月の進路週間に、グループ単位の体験型進路学習を実施する。 １年全生徒 職業人からの聴き取り ２年全生徒 大学研究者からの聴き取り	ウ・各グループのまとめやプレゼンテーション内容を評価する。 ・各学年の生徒の満足度を高める（アンケート／満足度 100％）。	
	ウ 体験型進路学習の実施	エ・教育課程を点検し、必要に応じて見直しを行う。	エ・平成２６年度入学生を対象とした教育課程の点検と見直しを行う。	
豊かな心のはぐくみと規律・規範の確立	【人権尊重と規範意識の向上】	ア・人権教育推進委員会と各学年とが連携し、学年進行に応じた人権尊重精神を涵養する。 １年 学習合宿（コミュニケーション力） 近畿統一応募用紙 講演会、リバティおおさか見学 ２年 車いす体験、講演会 ３年 講演会	ア・各学年の生徒の満足度を高める（アンケート／満足度 100％）。	
	ア 人権尊重精神の育成	イ・国のスーパーサイエンスハイスクール事業を活用しながら、海外の高校生たちとの交流を促進する。	イ・ボランティア講座受講者数４０名をめざす。 ・全クラブが社会貢献活動を行うことをめざす。	
	イ 社会体験・社会貢献活動の促進	イ・人権教育推進委員会、進学指導特色校検討委員会企画、生活指導部が連携し、社会体験・社会貢献活動を促進する。 １年生希望者対象「ボランティア講座」 東大阪支援学校、視覚支援学校との交流 各クラブ部の社会貢献活動	ウ・挨拶の励行をめざす。 ・遅刻者数の減少をめざす（年間延べ人数２０００名）。	
	ウ 基本的生活習慣の定着	ウ・生活指導部のリーダーシップのもと、挨拶の励行と遅刻者数の減少に取り組む。	エ・スクールカウンセラーによる助言等による機会を増やす。	
教職員の資質の向上と学校運営体制の確立	【教師力の育成】	ア・教員間の授業交流を実施し、その結果を教員にフィードバックする。また研究授業を行う ・生徒よる授業評価（年２回）や授業公開等を実施し、その結果を教員にフィードバックする。	ア・学習方法など授業に関する生徒の満足度を高める（アンケート実施／満足度８０％以上）。	
	ア 教科指導力の向上	イ・人権や教育相談にかかる研修を実施する。ま、学校外の研修に参加させる。	イウ・教員の満足度を高める（アンケート／満足度 100％）。	
	イ 教職員研修の充実	ウ・教科指導、校務分掌のほか、さまざまな教育活動や開かれた学校づくりへの参加・参画を促進する。 ・校内で学習会を実施する	エ・各分掌等での組織的運営を図る。	
	ウ ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成（講師を含む）	エ・学校の組織的運営を図る。		